

ふるさと納税の活用状況

～電子黒板や会話支援機器の導入により、教育、福祉を推進～

【経緯】

2008(平成20)年に始まったふるさと納税による本市への寄附額は年々増加し、2017(平成29)、2018(平成30)年度は3億円を超えています。

市では、ふるさと納税による寄附を基金に積み立てていますが、基金残高が4億円を超えたことから、この基金の活用方法を検討して、今回、電子黒板、デジタル教科書、会話支援機器(コミュニケーション)、マイクロバスの購入を行いました。

【目的・ねらい】

ふるさと納税による寄附として積み立てた基金約4億3千万円(平成30年度末現在)を、市では既存の予算では難しかった教育環境の充実や福祉分野に充てることで市民生活の向上を目指しています。また、用途を明確にすることでふるさと納税の本来の目的である「ふるさと応援」を可視化し、今後の更なる寄附を目指すものです。

なお、寄附それぞれの用途と導入の効果は、以下のとおりです。

- | | | |
|---------------------------|---|----------------------|
| 1 令和元年度
基金使用内容 | ①電子黒板の購入
中学校5校、小学校13校に計236台 | 59,310,403円 |
| | ②デジタル教科書の購入
中学校…主要5教科
小学校…主要4教科 | 13,506,686円 |
| | ③会話支援機器(コミュニケーション)の購入
要介護認定調査員用10台 | 2,494,584円 |
| | ④マイクロバスの購入
27人乗り1台 | 6,944,953円 |
| | | <u>計 82,256,626円</u> |
| 2 事業の効果 | ①②電子黒板・デジタル教科書…小中学校における主体的・対話的な学びの実現と児童・生徒の学力向上 | |
| | ②会話支援機器(コミュニケーション)…要介護認定調査の円滑化 | |
| | ③マイクロバス…安全安心な学校行事、市の事業の実施に利用 | |
| 3 基金積立状況 | 別紙のとおり | |

宇城市企画部企画課 松村課長、松浦係長 (担当:企画振興係)

問い合わせ

〒869-0592 熊本県宇城市松橋町大野 85

TEL:0964-32-1902(直通)0964-32-1111(代表) FAX:0964-32-2222

○宇城市ふるさと納税 基金積立金

年度	基金積立額(円)
平成 20 年	697,000
平成 21 年	752,000
平成 22 年	752,008
平成 23 年	452,220
平成 24 年	1,562,416
平成 25 年	1,343,118
平成 26 年	3,310,491
平成 27 年	9,394,000
平成 28 年	130,703,133
平成 29 年	156,994,584
平成 30 年	126,138,786
合計(a)	432,099,756

○宇城市ふるさと納税 基金使用状況

年度	金額(円)	備 考
平成 24 年	1,094,800	ごみステーションの設置、若宮 海水浴場看板設置
平成 25 年	88,200	若宮海水浴場放送設備
平成 27 年	50,000	奨学金事業
合計(b)	1,233,000	

	金額(円)
平成 30 年度末基金残高(a-b) c	430,866,756
令和元年度基金取崩予定額 d	82,256,626
差し引き(c-d)	348,610,130